

秋桜 2号

鳥取県立倉吉東高等学校
育友会人権教育推進委員会だより

2014年10月27日発行



《人権教育公開LHRが行われました》

去る10月8日(水)に、人権教育公開LHRが各クラスで行われました。

今回の秋桜第2号では、参加された保護者の皆さんの感想や生徒の感想を紹介します。残念ながら当日参加できなかった保護者の方々にも、当日の様子を少しでも知っていただければ幸いです。

1年生 テーマ：人権とは 身近な差別を考える

<保護者の感想から>

- 高校での公開人権教育LHRは初めてです。今回は結婚可能年齢とLINEの既読無視について生徒達が自分の思いをグループに分かれて積極的に話し合って発表していました。よく考えて、しっかり伝えあっているのがよくわかりました。
- 司会の生徒さんが寸劇をして、わかりやすく他の生徒の興味を引くようにしていた。グループ討議もみんなで取り組む姿が見られた。司会進行がてきぱきとしてスムーズに進んでいた。テーマが既読無視についてなど、今どきの高校生の問題を取り上げており、良かったと思います。
- 難しい課題を設定し、委員の皆が丁寧に取り組んでいることがよくわかりました。保護者や一般の参観があるために、発言しにくい生徒がいるのであれば、公開しなくてもよいように思いました。
- 死刑制度について賛否を問うという難しいテーマのもと、お互いが自分の意見をもっていろいろと理由を発表しあえて良かったと思います。人権LHR委員さんがいろいろと調べて、本を読んで取り組まれたことはすごいと思いました。親も色々考える時間を頂き良かったです。また、家でも親子で話し合ってみたいと思います。司会の皆さんもとても落ち着いて立派でした。感心することが多かったです。ディベートをするうえで、委員さん以外の生徒達がもう少し本を読んだりして自分の考えを裏付けられるといいかなと思いました。ただ、先生も言われたように、日本の現状として、賛成が8割という中で賛成派をサポートするような本は少ないと思います。
- 人権教育LHR委員さんたちが、事前にしっかり勉強して色々な角度から掘り下げて討論を進めていたことがすごいと思いました。また、自分の意見をしっかりと論じている姿を見て高校生の素晴らしさを感じました。参観して良かったと思います。意見を言う生徒が偏っていました。もっと多くの生徒の意見を聞きたかったです。

<生徒の感想から>

- 人権委員として色々準備していく中で、気付いた多くの差別について、深く深く考えていくという経験ができてよかった。クラスのみんなも意見をいっぱい出してくれて、話し合いもきちんとしてくれたおかげで、素晴らしい人権LHRになったと思う。



2年生 テーマ：在日コリアンに対する差別と人権問題

<保護者の感想から>

- 在日コリアンについて深く知りたいという気持ちが伝わりました。生徒たちが、自主的に話し合っている姿がとても良かったです。
- 韓国研修前にこの内容は良かったと思います。
- LHR委員を中心に班討議と発表による共有で理解を深めていこうとする授業でした。ただ、あまりにすんなり進んでいくことが気になりました。「私たち日本人」という立場で考えているために、自分自身の中にある差別性に触れることなく、安全な立場で意見を述べているように見えました。課題として、力のある生徒達だと思うので、もっと深く切り込んでいってほしかったと思います。「私たち日本人」の一人として、差別している側に立つ人の一人としての自分自身に気付くことでしょうか。
- 今日、参加してみて自分の知識のなさを感じる所がありました。知っているようで知らないあいまいなところが偏見を生むのではないかと思いました。私は今回4度目の参観でしたが、毎回思うことは、参観される方が少ないことです。少しでも多くの方が生徒たちが学ぶ姿を見て頂けたらなと思いました。

<生徒の感想から>

- 今回は、いろいろな問題について考えて難しいこともあったけど、班で意見を出し合ったり、人権LHR委員の人が班をまわってきて、違う視点から見た考え方を提供してくれたので、充実した人権LHRだったと思います。留学経験のある生徒の体験談は、初めて聞く話だったし、実際今起きていることなので、在日コリアンに対する差別についてよく考えることができました。

3年生 テーマ：結婚差別と人権問題

<保護者の感想から>

- 人権LHR委員の事前打ち合わせが充分できているように見受けられた。笑顔が沢山で班発表でも自主性が見られ、他者の話を一生懸命耳を傾けていた。生徒としての総括の中で、「自分を嫌にならないで、幸せになるにはを考えてほしい」が印象的だった。自分を振り返って、自分もかわっているという自覚が不足していると感じた。
- 各クラスで同じテーマを違った内容で話し合っているのが良かった。それぞれの生徒が考えながら話していた。しっかりとした考えをもった大人になってほしい。せっかくよい発表をしているのに声が小さい人がいた。
- 結婚というテーマから、「どうして差別的なことを結婚条件にしてしまうのか」「世間とは」という深い根本的なところをつきつめる構成は興味深く考えさせられた。子どもの力に感心しました。
- 高校生活最後の人権学習にふさわしい充実した授業であったと思います。次世代を作るべきリーダーたちが差別をなくそうとする強い意志を持つきっかけになればいいなと思いました。

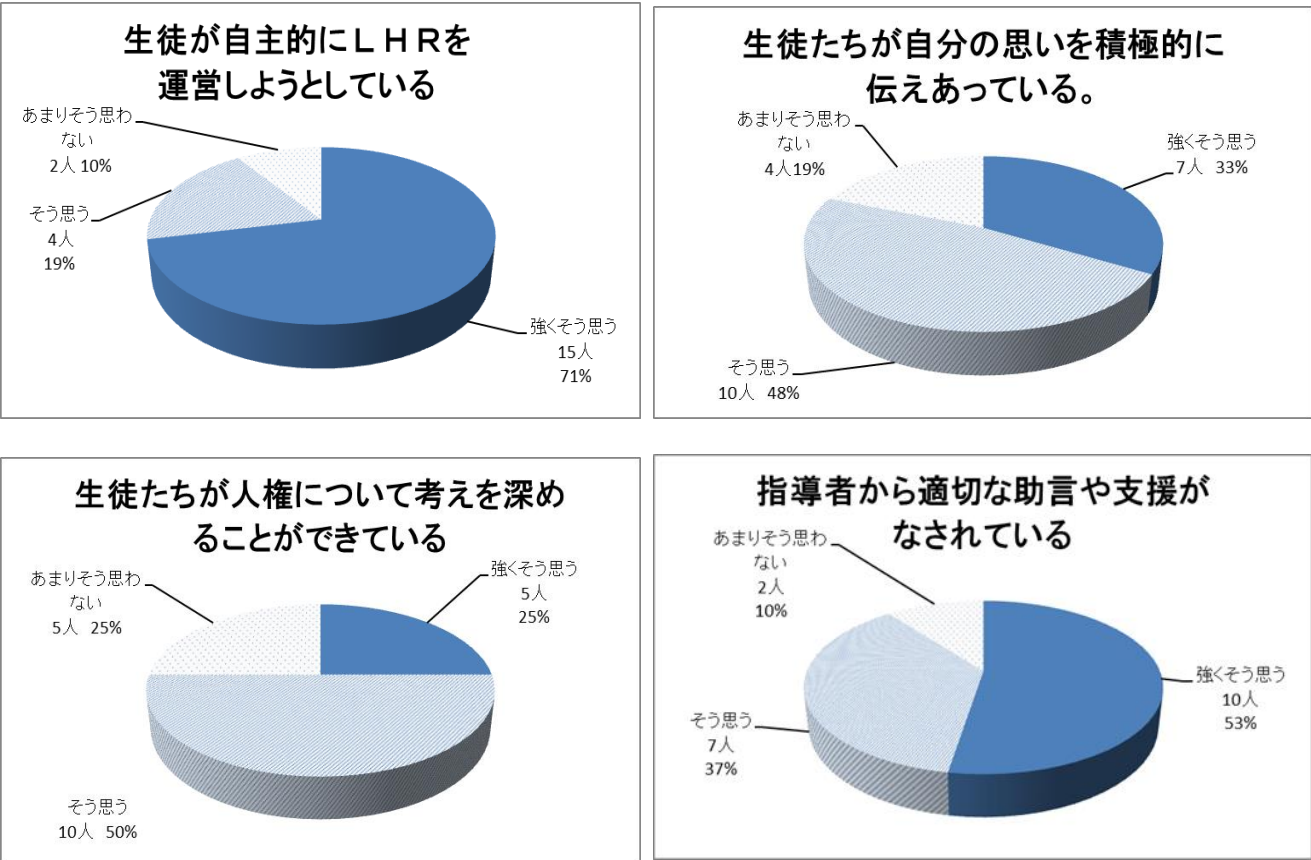
<生徒の感想から>

- 今日は、世間とは何だろうと改めて考えました。視点を変えることによって自分も世間になると確認しました。このことは差別にもあてはまって、差別の当事者は誰？と考えた時、今回の結婚差別の問題で考えると、当事者は被差別部落の人だけでなく親や親せき、すべての周りの人がなりうる立場でした。そして、そういう立場に自分がいつなるか分からないという状況があることを知りました。人権学習は高校で終わりの学習ではありません。私は人権問題に対して無関心ではありたくないです。皆が人や物を比べることなく差別という言葉がない社会になったらいいなと思いました。

県教委、中学校教員、文化センター職員の方などの感想（全学年）

- 生徒同士が意見を交換し合う場面があるといいなと思いました。マイナス的な考え（差別の再生産につながるような考え）が出るような発問では学習が充実しない。
- 初めて高校のLHRを参観させていただきました。中学校を卒業し、次にどのような学習を進めているのか確かめたいと思い来ました。2年は韓国研修を控え、テーマが自分達のものにしやすいだろうと思いました。3年は高校で最後だという言葉が発表の中に度々あり、学習への目的意識のようなものを感じました。1年は何をスタートにして学習していくのがいいのかを考えさせられました。
- 90分を通じてみていないので、内容については判断しかねますが、生徒はしっかり参加していたように見受けられました。
- 保護者としても難しいテーマでしたが、子どもたちがそれぞれ意見を出し合っている様子は大変良かったと思います。

○本年度の公開人権教育LHRの参加者は、1年13名、2年10名、3年12名、一般9名で合計44名となり、残念ながら昨年よりも少ない結果となりました。
人権教育推進委員会では、たくさんの保護者の方に参加していただくため、保護者の参加しやすい体制づくりについて今後検討していく予定ですので、ご協力をお願いします。
なお、参加者アンケートの集計結果は以下のとおりとなりましたので、ご覧下さい。



人権教育講演会（11月7日[金]）への参加について（お願い）

人権教育推進委員会では、毎年度「人権教育講演会」を開催しています。
既に生徒を通じて案内文書を配布していますが、本年度は以下のような日程・テーマで開催いたします。多数の会員の皆様の参加をお待ちしています。

【育友会人権教育講演会】

日 時 平成26年11月7日（金） 19：30～21：00
会 場 倉吉未来中心セミナールーム3

テーマ 「子どもの心の育ち
青年期は自分をさがして大人になる
～保護者はどう接するか～」

講 師 鳥取県中部子ども支援センター長 松島 綽子（よしこ） 氏
＊松島先生は、長年様々な子どもの支援活動に携わってこられた方です。
今回は、その経験をふまえ、「青年期の特徴」「思春期から青年期の友だち関係」「思春期まっただ中にある子どもへの理解と接し方」について保護者向けにわかり易くお話ししていただきます。

